

大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会(第21回)
計画策定・改定WGの活動報告

開催概要

□目的

災害廃棄物処理計画を策定または改定される市町村への支援を目的として開催した。

計画に必要な内容について理解を深め、計画策定・改定にあたり、必要な検討事項を各種資料を用いて説明。個別課題に対する相談、骨子案作成のサポートを実施。

□ワーキンググループメンバー

市町村 6自治体8名

災害廃棄物処理計画を策定したい自治体:4自治体
災害廃棄物処理計画を改定したい自治体:2自治体

開催概要

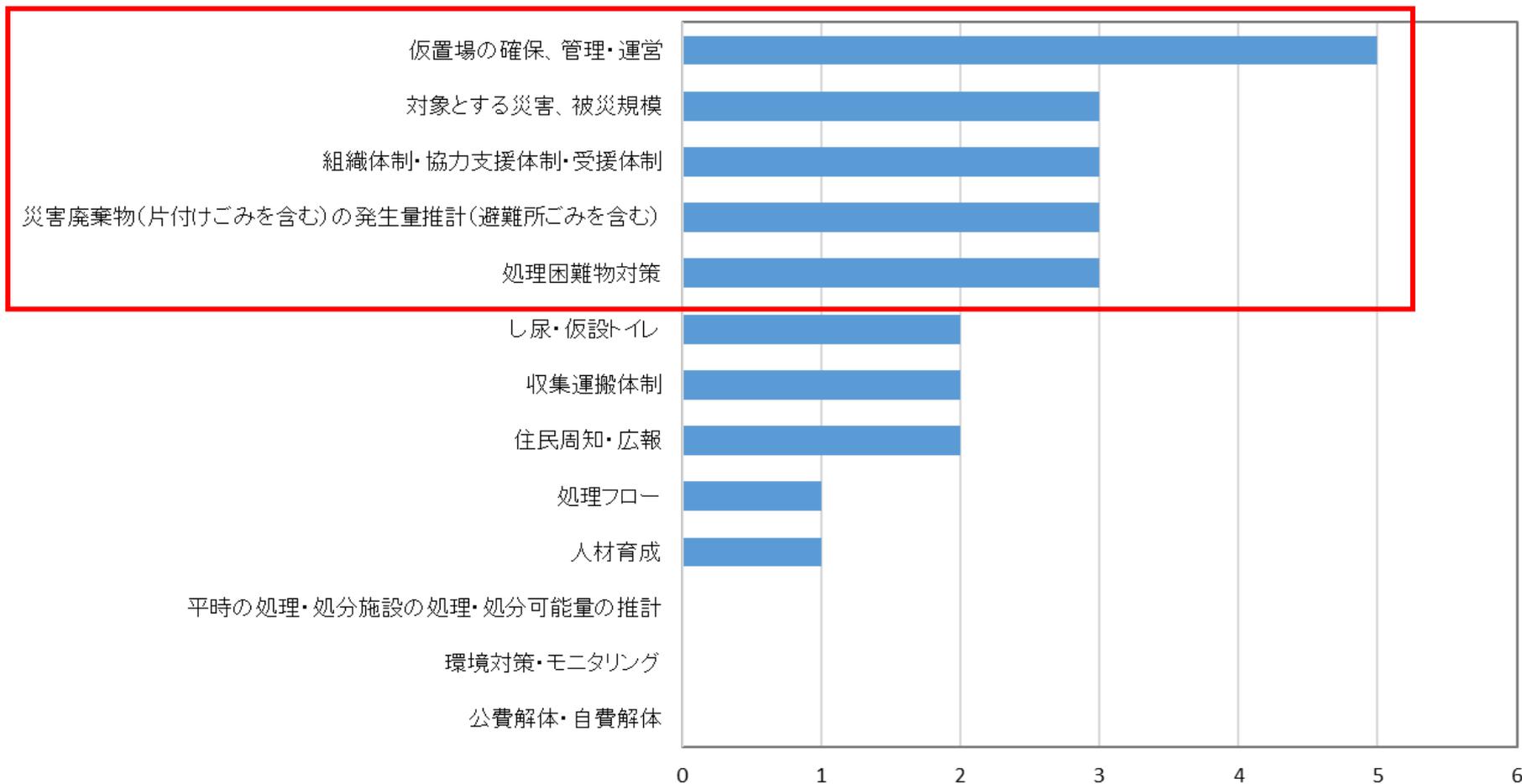
□開催日程・内容（オンライン開催）

実施回	主な内容
第1回 令和7年9月26日（金） 15:00-17:00	<ul style="list-style-type: none">・災害廃棄物処理計画策定の目的・事前アンケート結果・北海道版ワークシート（第3版）の紹介・計画の発災時の利用方法
第2回 令和7年10月20日（月） 13:00-15:00	<ul style="list-style-type: none">・被害想定の確認・災害廃棄物処理計画の基礎的事項、組織体制、災害廃棄物発生量推計・素案の作成について・【演習】避難所ごみ、仮設トイレし尿処理量の推計
第3回 令和7年11月17日（月） 13:00-15:00	<ul style="list-style-type: none">・水害における避難者数設定の考え方・住民周知、処理可能量、処理フロー、収集運搬体制、仮置場・【演習】災害廃棄物発生量の計算・【演習】住民周知手法に関する意見交換
第4回 令和8年1月26日（月） 13:00-15:00	<ul style="list-style-type: none">・必要となる仮置場面積の考え方・環境対策・モニタリング、公費解体、処理困難物、計画の見直し・【演習】計画策定後の運用準備に関する意見交換

第1回 計画策定・改定WG

事前アンケート

●計画策定・改定WGで説明を希望する内容



第1回 計画策定・改定WG

事前アンケート

●計画策定にあたり、特に留意すべきと考えている事項

- 仮置場に利用可能な市有地がない(北海道の未利用地を仮置場として選定しているが、売地のため災害時に利用できるかわからない)
- 仮置場に利用可能な公共用地が少ない
- 北海道や他の自治体(特に内陸都市部)の計画を参考に、最新の情報を取り入れた実効性のある改定をしたい。
- 千島海溝沿いの巨大地震が発生した場合、市内全域が浸水域となるため、当市で人的・物的な体制が取れず、何もできない可能性が高い

●計画策定にあたり、懸念している事項

- 計画改定にあたり、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震にかかる想定、対応の追記等について検討している。
- 災害廃棄物の処理量の計算などを知りたい、骨子案を作成してほしい。
- 計画のモデルケースや実際に被災した場合と計画との差異などについて実例があると助かる。
- 千島海溝沿い巨大地震は、国や道が計画策定をしたほうが実効性が高いと考える。

第1回 計画策定・改定WG

主な質問・意見

種類	主な質問・意見	回答
計画策定の目的について	計画策定の目的は、災害廃棄物量を推計し、それに対して必要となる仮置場面積を見積もるところがスタートという解釈でよいか	どの程度の災害廃棄物が発生するかという推計を行い、それをどのように処理して平時の状態に戻していくかということを目的とする計画であると捉えていただきたい。
災害廃棄物処理期間等について	千島海溝地震の被害想定に基づき、標準の3年で解体することを考慮すると、広大な仮置場が必要となる。また産廃業者、解体業者などの民間事業者も被災すると考えられるため、廃棄物の多さと処理に係るリソース不足について、実効性のある計画とするにあたり課題として悩んでいる。	片付けごみと、公費解体等による解体廃棄物は排出及び仮置場への集積のタイミングが異なる。片付けごみは発災直後に一斉に排出され、解体廃棄物は片付けごみが処理された後くらいのタイミングから一定量で排出されるため、仮置場への集積と処理のための排出が同時進行することを考えると、広大な仮置場を確保する必要はなくなる。

第2回 計画策定・改定WG

災害廃棄物処理計画に必要な内容の説明

(被害想定のお考え、基礎的事項、組織体制、処理スケジュール、災害廃棄物発生量等の推計)

- 計画で対象とする被害想定は、自治体によって、最も規模が大きい災害を対象とする。
- 災害廃棄物対応に必要な組織体制
- 庁内他部署、他の自治体、協定締結先等との連携体制とその役割
- 初動対応として必要な業務と実施時期(処理のスケジュール)
- 広域連携体制
- 災害廃棄物発生量の推計方法(災害廃棄物全体量、片付けごみ発生量、津波堆積物量)の説明と算定用ファイルの説明
- し尿発生量、避難所ごみ発生量

【演習】 避難所ごみ・仮設トイレし尿処理量の推計

- 災害廃棄物処理計画に使用する基礎的数値の計算演習
 - 避難所ごみ発生量の推計
 - 仮設トイレし尿発生量(収集必要量)、仮設トイレ基数の推計

避難所ごみ発生量・仮設トイレし尿発生量の推計

■ 仮設トイレし尿収集必要量

上水道支障率 (世帯) / (世帯) = (%) …[A]

断水世帯数 総世帯数

※小数点第2位を四捨五入
100%以上だった場合は、
100%として計算してください。

断水による仮設トイレ必要人数

{ (人) - (人) × ((人) / (人))

水洗化人口 避難者数

× (%) × 1/2 = (人) …[B]

[A] ※小数点以下四捨五入

仮設トイレ必要人数 (人) + (人) = (人) …[C]

避難者数 断水による仮設
トイレ必要人口

第3回 計画策定・改定WG

災害廃棄物処理計画に必要な内容の説明

(住民周知、処理可能量、処理フロー、収集運搬体制、仮置場)

- 住民やボランティアに適切な分別で、適切に排出してもらえような啓発・広報
- 広報の内容、情報伝達手段の災害廃棄物処理計画への位置づけ・平時からの広報手段の事例紹介
- 災害廃棄物発生量推計を基にした処理可能量の推計の考え方、及び方法
- 災害廃棄物の処理フローの考え方
- 片付けごみの仮置場までの収集運搬方法の整理
- 仮置場に関する説明、仮置場候補地の選定・事前調査と計画への記載方法
- 仮置場候補地の選定基準
- 仮置場面積の推計方法
- 仮置場の管理・運営の手法(設置の留意事項、分別、配置、配置・資機材等の事例紹介)

【演習】 災害廃棄物発生量の計算

- 各自治体の対象とする災害に関する災害廃棄物発生量の推計演習
- 災害廃棄物量算定用のエクセルファイルの使い方

第3回 計画策定・改定WG

【演習】 住民周知手法に関する意見交換

「発災時に住民に対して周知する必要がある事項」について平時にひな形を作成することを想定し、周知の必要がある①テーマ、②事項 について示す。

片付けごみ・生活ごみ等の 排出方法

①テーマ:ごみの収集
②周知事項:通常ごみと災害ごみの対応(個別収集、仮置場等への持ち込み、手数料減免、収集期間等)、し尿処理の対応など

①生活ごみの出し方
②「生活ごみは、収集・回収体制が整い次第周知します」

①片付けごみの出し方
②「ごみの受入体制が整い次第周知します」

仮置場の利用

①仮置場
②仮置場に運搬できるごみの説明、開設時間、仮置場の場所、罹災証明書等の必要書類

①仮置場
②持込可能なごみについて

①仮置場
②開設場所、分別方法、受入不可のものの周知

家屋解体ごみ

①家屋解体に係るごみ処理
②片付けごみとの区分分け、搬出のタイミングなど

その他

・不法投棄の防止

・便乗ごみの防止

第4回 計画策定・改定WG

災害廃棄物処理計画に必要な内容の説明

(環境対策・モニタリング、公費解体、処理困難物、計画の見直し)

- 実際に必要になる仮置場面積について(片付けごみと解体廃棄物の排出タイミングの違い)
- 環境対策・モニタリングに関する技術資料の記載、モニタリングの実施事例
- 公費解体(損壊家屋の撤去)の対象となる範囲、手順、マニュアル類の紹介
- 自費解体に関するマニュアル・事例の紹介
- 公費解体の実施に向けた課題(能登半島地震の事例紹介)
- 有害廃棄物・適正処理困難物の種類・留意事項・処理ガイドライン等
- 計画の見直し

【演習】 計画の運用準備に関する意見交換